

千葉大学環境報告書 2008 ダイジェスト版

Chiba University Environmental Report 2008
Digest Version

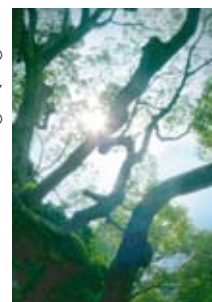
国立大学法人千葉大学
National University Corporation
Chiba University

目次

- 主要キャンパス紹介…1
- 千葉大学環境方針…2
- 千葉大学の環境マネジメントシステム運営組織図…2
- 2007年度のトピックス…3
- 環境目的・環境目標と達成度一覧…5
- 物資収支…9
- 環境会計…10
- 用語集…10

表紙の写真について

千葉大学西千葉キャンパス内の大きなクスノキです。西千葉キャンパスには数多くのクスノキの大木が茂っています。



千葉大学の主要キャンパス紹介

千葉大学は、西千葉、松戸、柏の葉、および亥鼻の4地区に主要キャンパスを有しています。(以下のキャンパス紹介は、特に表記がない限り2008年4月現在のものです。)

西千葉キャンパス

西千葉キャンパスは千葉市街から少し離れた文教地区にあります。39万㎡に及ぶ広大なキャンパスは、ケヤキやクスノキが多く茂り、緑豊かなキャンパスとして知られています。

大学本部に加え、文学部・教育学部・法経学部・理学部・薬学部・工学部の6学部が立地しており、教育学部の附属幼稚園・附属小学校・附属中学校を併設しています。また、融合科学研究科・人文社会科学研究科などの各大学院、環境リモートセンシング研究センター・総合メディア基盤センターなどの各センターを置き、幅広い分野において教育・研究活動を行っています。

教職員、学生を含めた在籍人数は1万人を超え、千葉大学のメインキャンパスとしての役割を担っています。(〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33)



総合校舎と中庭

松戸キャンパス

松戸市の小高い丘の上に立地する、森林に囲まれた緑豊かなキャンパスです。園芸学部と大学院園芸学研究科が置かれ、都市園芸農業や緑地環境保全など、食と緑に関連する数多くの研究が行われています。研究で得た知識を地域社会と共有し、より良い社会を構築することを目的として、地域社会との交流に積極的に取り組んでいます。

(〒271-8501 松戸市松戸648)



フランス式庭園

柏の葉キャンパス

環境健康フィールド科学センターが置かれ、人々の健康的な生活に貢献することを目的とした「環境健康フィールド科学」の創成と展開を行っています。環境報告書2007で取り上げた「ケミレスタウン・プロジェクト」を含めた、柏の葉国際キャンパスタウン構想が進められており、産官学民の連携に、国際性・大学としての特徴・街の機能といった視点が加えられています。また、センター内には柏の葉診療所が開かれ、東洋医学を中心とした診療を行っています。

(〒277-0882 柏市柏の葉6-2-1)



管理研究棟

亥鼻キャンパス

医学部・看護学部・薬学部の3学部、医学薬学府・看護学研究科などの各大学院があります。そのほか、全国共同利用施設である真菌医学研究センターなどの研究施設や医学部附属病院が置かれています。また、研究の内容を少しでも多くの方に理解にいただくために市民講座やウェブ講座を開催し、社会・地域医療への貢献に努めています。

(〒260-8670(医) 千葉市中央区亥鼻1-8-1)



医学部本館

千葉大学環境方針

千葉大学では、千葉大学憲章と千葉大学行動規範に基づき、以下の環境方針を定め、本方針に沿って環境への取り組みを進めています。

わたしたち人類は、産業革命以来、大量の資源エネルギーを用いてその活動を発展させてきました。その結果、地球の温暖化、化学物質汚染、生物多様性の減少など、さまざまな環境問題に直面しています。まさに、人間活動からの環境への負荷によって人類の存続の基盤となる環境がおびやかされています。新しいミレニアムの初頭にあって、これからの千年にわたり今の文明を持続させるために何をすべきか、真剣に考え、英知を結集させるべきです。

千葉大学は、理系分野と文系分野の双方の幅広い分野を含む総合的な教育・研究機関として、この英知の形成と集積と実践に寄与していく責務があります。このため、とくに次の事項を推進していきます。

1. 文系と理系の知恵を集積し、また附属学校と連携し、総合大学としての特長を活かした環境教育と研究の実践を進めます。
2. 省エネルギー・省資源、資源の循環利用、グリーン購入を推進し、化学物質の安全管理を徹底します。また、構内の緑を保全します。これらにより環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスを実現します。とくに、環境に関連する法規制や千葉大学が同意する環境に関する要求事項を理解し、遵守します。
3. 環境マネジメントシステムの構築と運用は学生の主体的な参加によって実施します。また、学生による自主的な環境活動を推奨し、多様な環境プログラムが実施されるキャンパスを目指します。
4. 環境マネジメントシステムを地域の意見を反映させながら、地域社会に開かれた形で実施していきます。

千葉大学では、この環境方針に基づき目標を設定し、その実現に向けて行動するとともに、行動の状況を監査して環境マネジメントシステムを見直します。これにより、継続的にシステムの改善を図り、汚染を予防します。

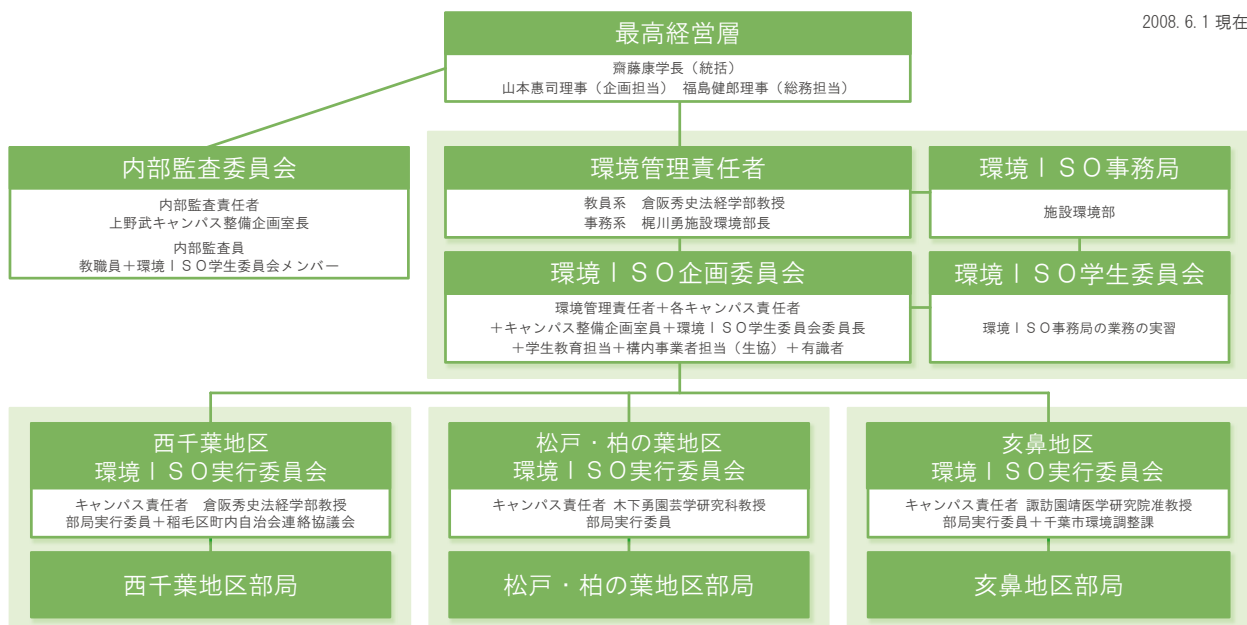
また、この環境方針は文書化し、千葉大学の教職員、学生、常駐する関連業者などの関係者に周知するとともに、文書やインターネットのホームページを用いて一般の人に開示します。

2008年4月1日

千葉大学長 齋藤康

千葉大学の環境マネジメントシステム運営組織図

2 千葉大学の環境マネジメントシステム (EMS) は、主要4キャンパスの教職員（非常勤講師除く）、構内事業者職員（パート含む）、環境ISO学生委員会のメンバー、大学院博士後期課程の院生（登録した者のみ）を構成員としています。なお、その他の院生・学生は、構成員ではありませんが、準構成員として基礎研修の実施対象と位置づけています。



2007 年度のトピックス

千葉大学の環境マネジメントが高い評価を受けました

■第6回日本環境経営大賞 — 「環境経営優秀賞」

千葉大学の環境マネジメントの仕組みが『第6回日本環境経営大賞』（主催：日本環境経営大賞表彰委員会・三重県）の環境経営部門において「環境経営優秀賞」を受賞しました。この優秀賞は、大学の環境マネジメントとしては初めての受賞です。



■「千葉大学環境報告書 2007」

「第11回 環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」

（株式会社東洋経済新報社 / グリーン・リポーティング・フォーラム）— 「公共部門賞」

「第11回 環境コミュニケーション大賞」

（環境省 / 財団法人 地球・人間環境フォーラム）

環境報告書部門 — 「優秀賞（環境配慮促進法特定事業者賞）」



千葉大学環境報告書 2007

千葉大学環境報告書 2007 が、わが国での主要な2つの環境報告書賞をそろって受賞しました。千葉大学では、学生が教職員と連携しながら、原案の作成やデザインを行うという全国でも珍しい体制で作られています。

千葉大学は今後とも最高経営層のコミットメントのもと、学生が主体的に参画し、環境報告書を作成することを通じて、誠実な環境情報の開示を実現していきます。

環境マネジメントシステム実習Ⅲ（インターンシッププログラム）が始まりました

千葉大学では、環境マネジメントシステム (EMS) の構築・運用を、環境に関する実務教育（EMSを運営できる人材育成）の機会と捉え、学生の環境ISO活動を実習科目として単位化するプログラムを導入しています。

■新たな科目「実習Ⅲ」

2007年度より千葉大学では、新たに「環境マネジメントシステム実習Ⅲ」を実施しています。

【環境マネジメントシステム実習Ⅲ】

実習Ⅱを習得した学生を対象に開講されます。千葉大学での実務実習の経験を活かして、学外の組織においてEMSに関係する仕事や職場の状況を体験することで、専門科目の教育効果を高めるとともに、実習生が将来の職業選択に係わる経験を得ることを目的としています。

2007年度は、夏季休業中の5日間、13名の学生がインターンシップ派遣先（関東圏内のISO14001認証取得組織又は認定機関）で内部監査の体験、環境報告書に関するコメント、環境に関する調査・プレゼンテーション、国際会議支援、環境業務等を体験しました。

【環境マネジメントシステム実習Ⅰ】

EMSの基礎知識を習得し、実際にキャンパスにおける環境目的・環境目標・実施計画に関する活動に参加するとともに、研修などを行います。

【環境マネジメントシステム実習Ⅱ】

基礎研修講師や、内部監査チームに加わっての内部監査員を務めること、キャンパスにおける環境目的・環境目標・実施計画に関する担当活動を担うこと、各種書類の原案を作成することなど、EMSの業務全般に携わることとなります。

【環境マネジメント実務士】



大学生活において3年間EMSの活動に携わった学生に与えられる学内資格です。

2007年度までに、69人の学生が実務士の資格を得ました。

「環境マネジメント実務士」認定証

レジ袋有料化がさらなる環境活動を生み出しています

千葉大学では、2006年度より西千葉キャンパス生協物品販売店舗でのレジ袋有料制（1枚5円）を開始しました。2007年度からは松戸・亥鼻キャンパスにもレジ袋有料制を拡大し、現在では西千葉キャンパス3店舗と合わせた全5店舗で、有料制を実施しています。

■れじぶー基金の積立て

「れじぶー基金」＝募金額 105,070円＋拠出金（年間30万円）

※募金額＝1枚5円のレジ袋代の合計

※拠出金＝生協店舗がレジ袋を削減できたことによる経費の節減分

2007年度のレジ袋使用率は、3キャンパス全体で平均2.0%、2007年度の単純積立金額は405,070円になりました。この収支状況は、千葉大学生協のホームページの中で公開しています。

店舗利用者からの意見を反映させながら学内の更なる環境改善を目的として活用しています。

■れじぶー基金の活用による環境活動の展開

2007年度は、以下のような様々な活動に活用されました。

千葉大学生協における環境配慮型商品の販売

ーエコバッグ・マイ箸のデザイン・販売ー

エコバッグやマイ箸をデザインし、千葉大学生協において販売しました。エコバッグやマイ箸プリントのデザインは、2006年に西千葉キャンパスで第1弾を販売した際に学生から公募したものを使用し、学生の受け入れられやすいデザインを重視しています。また、費用の一部をれじぶー基金で賄い、低価格で販売しました。



ーグリーン購入基準適合製品キャンペーンー

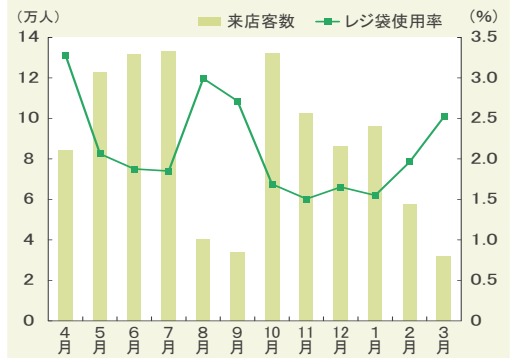
グリーン購入基準に適合する文具について、店頭価格の約20%をれじぶー基金で補填し、値引き販売するキャンペーンを行いました。



■活動の拡大

有料制の拡大とともに、れじぶー基金による環境改善活動も全キャンパスに取り組みを拡大しています。今後も有料制への協力・理解を求めながら、店舗利用者の目に見える形での積極的な環境改善活動に繋げていきます。

3キャンパス4店舗合計の来店客数とれじ袋使用率の推移



総客数1,053,584人のうち、21,014袋の使用がありました。

学内環境改善

ー自転車回収イベントー

キャンパス内の放置自転車の発生を抑制することを目的に、卒業生を対象に自転車を無料で引き取るイベントを実施しました。この引き取り実務などの生協への委託費用はれじぶー基金から支出しています。回収した自転車は整備後、キャンパス内で貸し出します。

ー花壇作りー

2006年度から始めた花壇作りを2007年度も引き続き実施し、花の植え替え費用としてれじぶー基金を活用しました。この花壇は、継続的な構内緑化を目的としたプロジェクトです。



環境目的・環境目標と達成度一覧

環境に特に影響を与え、またはその可能性がある項目に関して、千葉大学環境方針に基づいて、キャンパスごとに環境目的・環境目標・実施計画を設定しています。

環境目的は中長期（原則として3年間）、環境目標は短期（同1年間）の視点から設定しています。実施計画は目的・目標を達成するためにどのように取り組んでいくのかを記載したものです。

以下に、2007年度の環境目的・環境目標を各地区がどの程度達成できたかをまとめた一覧表を掲載します。達成度評価基準は以下に示します。

達成度評価基準 ○ 目標を達成している項目 △ 目標を概ね達成しているが、更なる努力が必要な項目
 ▲ 目標を達成できなかった項目 ※ 目標達成状況の把握が難しかった項目

No.	環境方針	環境側面	環境目的	2007年度環境目標	地区	主な取り組み	達成度
1	総合大学としての特長を活かした環境教育・研究	環境教育	大学・大学院における環境教育・研究を推進し、学内における環境関係の教育・研究を充実させる。	環境に関する教育・研究機会を維持し、増加させる。	西千葉	・環境関連科目を340科目開講 ・環境関連研究者は168人在籍（経年変化は今後実施） ・附属図書館本館の環境関連書籍は61冊増加	※
					亥鼻	・環境関連科目を34科目開講 ・環境関連研究者は16人在籍（経年変化は今後実施） ・附属図書館亥鼻分館の環境関連書籍は8冊増加	※
					松戸・柏の葉	・環境関連科目を201科目開講 ・環境関連研究者は95人在籍（経年変化は今後実施） ・附属図書館松戸分館の環境関連書籍は41冊増加	※
						・環境関連研究者は95人在籍（経年変化は今後実施）	※
2			附属中学校・小学校・幼稚園における自主的な環境教育プログラムを定着させる。	附属中学校・小学校・幼稚園において自主的な環境教育プログラムを実施する。	西千葉	・附属幼・小・中学校で環境教育を実施 【中】節電啓発、割り箸の回収 【小】再生紙作りや環境に配慮した洗剤作り エネルギーの導入や節水・節電の呼びかけを実施 【幼】構内のゴミ拾いや紙芝居の読み聞かせ 園内での堆肥化活動やカブト虫の飼育	○
3	環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり	用紙類の使用	用紙類の使用量を今後3年間にわたり年平均で1%以上削減する。	用紙類の使用量を前年比で1%以上削減する。	西千葉	・紙類（A4判換算）購入量は前年度比16.4%増加 ・トイレトーパー購入量は前年度比17.8%減少	▲
					松戸・柏の葉	松戸地区 ・紙類（A4判換算）購入量は前年度比23.5%減少 ・トイレトーパー購入量は前年度比44.7%減少 柏の葉地区 ・紙類（A4判換算）購入量は前年度比42.7%減少 ・トイレトーパー購入量は前年度比41.3%減少	○
						亥鼻	・紙類（A4判換算）購入量は前年度比3.3%減少 ・トイレトーパー購入量は前年度比16.4%減少
4			用紙類の適切な再利用・回収を推進する。	用紙類の再利用・回収システムを周知し、定着させる。	西千葉	・ミックス古紙回収を導入 ・紙ごみのリサイクル率が前年度比21.7%から43.5%に上昇	○
					亥鼻	・ミックス古紙回収を導入 ・紙分別収集ポスター掲示などの啓発を実施	○
5		エネルギーの使用	エネルギー使用量を平成18年度に比較して今後3年間にわたり年平均で1%以上削減する。（平成18年度の施設内容をベースとして、増築・追加設備分等は除外して比較する。）	エネルギー使用量を前年度に比較して1%以上削減する。	西千葉	・総エネルギー投入量は前年度比2.5%増加（電気は前年度比1.3%増加、都市ガスは前年度比10.9%増加、A重油は使用なし） ・光熱水料削減プロジェクトを継続 ・「省エネイベント」等の啓発活動 ・施設建設における省エネルギーへの配慮を実施	▲
					松戸・柏の葉	・松戸地区の総エネルギー投入量は前年度比10.0%増加（電気は前年度比9.8%増加、都市ガスは前年度比11.2%増加、A重油は使用なし） ・柏の葉地区の総エネルギー投入量は前年度比16.1%増加（電気は13.4%増加、都市ガスは7.8%増加、A重油は77.1%増加） ・光熱水料削減プロジェクトを継続 ・「省エネイベント」等の啓発活動 ・施設建設における省エネルギーへの配慮を実施	▲
						亥鼻	・総エネルギー投入量は前年度比1.3%減少（電気は前年度比2.0%減少、都市ガスは前年度5.0%増加、A重油は前年度30.0%減少） ・光熱水料削減プロジェクトを継続 ・「省エネイベント」等の啓発活動 ・施設建設における省エネルギーへの配慮を実施

No.	環境方針	環境側面	環境目的	2007年度環境目標	地区	主な取り組み	達成度
6		水の使用	水の使用量を平成18年度と比較して今後3年間にわたり年平均で1%以上削減する。(平成18年度の施設内用をベースとして、増築・追加設備分等は除外して比較する。)	水の使用量を前年比で1%以上削減する。	西千葉	・水資源投入量は前年度比0.5%減少(上水使用量は前年度比0.4%減少、地下水使用量は前年度比0.5%減少) ・節水コマ等の設置継続	△
					松戸・柏の葉	・松戸地区での水資源投入量は前年度比11.7%減少(上水使用量は前年度比0.7%減少、地下水使用量は前年度比34.0%減少) ・柏の葉地区での水資源投入量は前年度比16.3%減少(上水使用量は前年度比3.4%減少、地下水使用量は前年度比18.5%減少) ・節水コマ等の設置継続及び啓発活動の実施 ・雨水有効利用の推進を検討	○
					亥鼻	・水資源投入量は前年度比12.3%減少(上水使用量は前年度比3.8%減少、地下水使用量は前年度比18.6%減少) ・節水啓発ステッカーの貼付状況の確認と貼付実施	○
7		廃棄物の排出	廃棄物分別を徹底し、廃棄物の発生抑制、リユース・リサイクルの促進を図る。	3R(リデュース・リユース・リサイクル)の促進をはかるとともに、一般廃棄物の排出量を前年度比5%以上、産業廃棄物の排出量を前年度比1%以上削減する。(リサイクル分を除く。また、施設の改修整備に伴うものは除外して比較する。)	西千葉	・一般廃棄物排出量は前年度比2.1%減少 ・産業廃棄物排出量は前年度比22.7%増加 ・ミックス古紙回収の導入により紙ごみのリサイクル分は増加 ・ごみ分別イベントの開催、附属幼稚園でのペットボトルキャップ回収の導入 ・感染性廃棄物の誤排出の発生	▲
					亥鼻	・一般廃棄物排出量は前年度比36.3%減少 ・産業廃棄物排出量は前年度比63.1%増加 ・ミックス古紙回収の導入により紙ごみのリサイクル分は増加 ・ごみ箱分別表示の確認と徹底、レジ袋有料化の開始	▲
					松戸・柏の葉	・松戸地区の一般廃棄物排出量は前年度比12.4%減少、産業廃棄物排出量は前年度比47.0%増加 ・柏の葉地区の一般廃棄物排出量は前年度比27.3%増加 ・分別ポスター、イベントの実施による構成員・準構成員への分別徹底を促進 ・レジ袋有料化の導入	△
8		製品の購入	環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を進める。	千葉大学グリーン調達方針に基づく調達を行なう。	西千葉	・方針に基づき、対象となる物品については100%の調達目を達成	○
					松戸・柏の葉		○
					亥鼻		○
9		排水の管理	排水中の有害物質の濃度を定期的に低い値に下げる。	法規制を100%確実に順守するための体制を整える(特に窒素、ノルマルヘキサン抽出物質、水銀等)。	松戸・柏の葉	・昨年度問題となった松戸地区での窒素・リンについては基準を順守 ・ノルマルヘキサン抽出物質、水銀等で基準超過	▲
10		化学物質の使用	化学物質の適正な管理を進める。	化学物質の適正管理を徹底し、維持する。	西千葉	・化学物質のバーコード管理システム(CUCRIS)を導入	○
					亥鼻		○
11		廃水の排出	廃水の浄化を促進する。	各種法規制を確実に順守するための体制を整える。	西千葉	・グリストラップ(油脂分等分離設備)の継続設置、定期清掃により適正な廃水処理を実施 ・ノルマルヘキサン抽出物質の排出基準超過	▲
					松戸・柏の葉		▲
12		生ごみの排出	生ごみの排出量を抑制する。	生ごみの発生量を把握し、排出抑制のためのシステムについて検討する。	西千葉	・生ごみ発生量記録表への記載による把握 ・食堂における小盛りメニューの実施(生協・レストランコルザ)	○
					松戸・柏の葉	・生ごみの発生量を把握 ・生ごみの発生量の削減方法について検討	○
					亥鼻	・生ごみ発生量の計量、バイキング方式の導入	○

No.	環境方針	環境側面	環境目的	2007年度環境目標	地区	主な取り組み	達成度
13		廃油の排出	廃油の発生抑制・適正処理を確保する。	廃油の発生抑制・適正処理のためのシステムを構築し運用する。	西千葉	・業者への依頼伝票を保存し依頼先・量を把握 ・e・プレート（マイナスイオンにより油の劣化を抑制する装置）の使用（学校福祉協会）	○
				現在の処理方法を把握し、改善方法を検討する。	松戸・柏の葉	・廃油の発生量と処理方法を把握、改善方法を検討	○
				廃油の発生抑制・適正処理のためのシステムを構築し運用する。	亥鼻	・eプレートの導入	○
14		製品の販売	グリーン購入製品の普及を進める。	グリーン購入基準適合製品の品揃えを充実させ、その情報提供を進めて積極的な選択を促す。	西千葉	・グリーン購入適合製品のプライスカードにマークを表示（生協） ・値引きによる啓発キャンペーンの実施（生協）	○
				グリーン購入の取り組みを促進する。	松戸・柏の葉	・グリーン購入適合製品のプライスカードにマークを表示（生協）	○
				グリーン購入基準適合製品の品揃えを充実させ、その情報提供を進める。	亥鼻	・グリーン購入基準適合マークの商品への明示	○
15		製品の販売	製品包装廃棄物の削減・循環利用を促進する。	製品包装廃棄物の削減・循環利用を促進する。	西千葉	・リ・リパックの利用継続（生協） ・レジ袋有料制の継続（生協） ・ボタン電池、インクカートリッジの回収継続（生協、大和屋）	○
				製品包装廃棄物の削減・循環利用を促進するための具体的な取組を進める。	松戸・柏の葉		○
				製品包装廃棄物の削減・循環利用を促進するための具体的な取組を進める。	亥鼻	・リ・リパックの利用 ・レジ袋有料化を導入 ・ボタン電池、インクカートリッジの回収継続	○
16		緑の存在	落ち葉・枝の堆肥化を推進する。	落ち葉・枝の堆肥化等のテストプロジェクトを継続させる。	西千葉	・学内の落ち葉を用いた堆肥「けやきの子」の製造、地域への頒布（1,728kg）	○
				落ち葉・枝の処分現状を把握し、堆肥化や再資源化等のテストプロジェクトを継続させる。	松戸・柏の葉	・落ち葉の堆肥化についての製造・販売許可を取得 ・堆肥化ピットの運用継続	○
				西千葉キャンパス内において、計画的に管理された緑地面積の拡大を検討するとともに、千葉大学独自の保全区域を設定する。	西千葉	・環境整備・美化活動を実施 ・保全区域設定の検討 ・花壇作り及び管理	○
				キャンパスの緑の将来像を描き、適正な管理システムを構築する。	松戸・柏の葉	・樹木の管理状況を調査し、有効で実施可能な管理システムの実現に向けての課題を整理	○
			構内の美化・清掃を進め、構内環境を適正に維持する。	定期的な構内の美化・清掃を行う。	亥鼻	・構内環境整備・美化活動の実施	○

No.	環境方針	環境側面	環境目的	2007年度環境目標	地区	主な取り組み	達成度
17	環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり	放置自転車の存在	放置自転車を削減し、効果的な自転車管理体制を構築する。	放置自転車の撤去をすすめるとともに、放置自転車・キャンパス内と周辺地域への違法駐輪の削減のため、キャンパス内の自転車および交通のあり方について、検討を進める。	西千葉	・駐輪ステッカー制度の継続、1,044台の放置自転車を撤去 ・駐輪マナー啓発活動イベント、卒業生からの自転車回収イベントを実施（35台回収）	○
					松戸・柏の葉	・QRコード付き駐輪ステッカーを発行して自転車、バイクを管理。駐輪場を明確化	○
18	喫煙	分煙環境の整備と施設利用者への周知徹底により受動喫煙を防止する。	施設利用者の意見を反映させつつ、キャンパス内の喫煙対策指針の周知徹底を図る。	「国立大学法人千葉大学における喫煙対策に関する指針」を遵守する。	西千葉	・屋内全面禁煙の継続 ・喫煙所の減少を推進 ・ポスターなどによる歩きタバコ防止の呼びかけを実施	○
					松戸・柏の葉	・出入り口付近での喫煙所を撤去するなど喫煙場所を6箇所削減	○
					亥鼻	・分煙周知ポスターの掲示、分煙状況アンケートの実施	○
19	学生主体の環境マネジメントシステムの構築と運用	環境ISO学生委員会を維持・発展させる。	学生委員会メンバーを増加させ、内部コミュニケーションを活発にさせる。	学生委員会メンバーを増加させる。	西千葉	・新年度ガイダンスや基礎研修を通じて学生委員会への参加を呼びかけを実施 ・2007年度は全地区学生委員会を合わせて183人が参加（2008年1月現在）	○
					松戸・柏の葉	・学生委員会への参加をガイダンス時の研修などを通じて呼びかけ、内部コミュニケーションを活性化	○
					亥鼻	・新年度ガイダンスにおける、学生委員会活動への参加勧誘 ・亥鼻地区学生委員の増加（1年2名、3年2名）	△
20	学生の自主活動	学生による自主的な環境活動を促進させる。	学内外への情報発信、学生による提案への支援などによって、学生の自主的な環境活動を促進する。	学生が発案する複数の自主的な環境活動プログラムを認知し、学内外への広報などによって支援する。	西千葉	・学生委員会公式ホームページなどによる情報発信 ・大学祭環境対策などによる自主的な環境活動の促進	○
					松戸・柏の葉	○	
21	地域社会に開かれた形での環境マネジメントシステムの実施	地域社会の主体的な参加を得る。	地域社会の意見を引き続き反映させる。	地域の人々と環境活動を行う。	西千葉	・西千葉地区環境ISO実行委員会への地域自治会長の参加	○
					松戸・柏の葉	・戸定祭における催し物・イベントの実施 ・学内での地域交流活動の企画実施（緑花プロジェクト、昆虫教室等）	○
					亥鼻	・亥鼻地区環境ISO実行委員への千葉市役所職員の参加	○
22	地域社会への情報公開	地域社会へ情報を公開する。	千葉大学の環境への取り組みについて地域社会に発信する。	松戸・柏の葉地区環境ISO学生委員会の取り組みについて地域社会に発信する。	西千葉	・環境報告書の公表 ・昨年に引き続き「環境だより」を年2回発行し、附属幼・小・中学校を通じて地域家庭に頒布	○
					松戸・柏の葉	・ホームページに掲載して、地域社会に発信 ・Web-GISの試験的に運用	△
					亥鼻	・環境報告書の公表 ・環境ISO事務局ホームページによる亥鼻地区の情報の発信	○
23	地域との交流	地域社会との交流を盛んにし、千葉大学環境ISOを広めていく。	地域社会のイベント等に積極的に参加する。	西千葉	・千葉大学で各種シンポジウム開催 ・リターナブルびん開発プロジェクト、八都県市3R学生サミット企画・運営など環境ISO学生委員会による活動	○	

物質収支

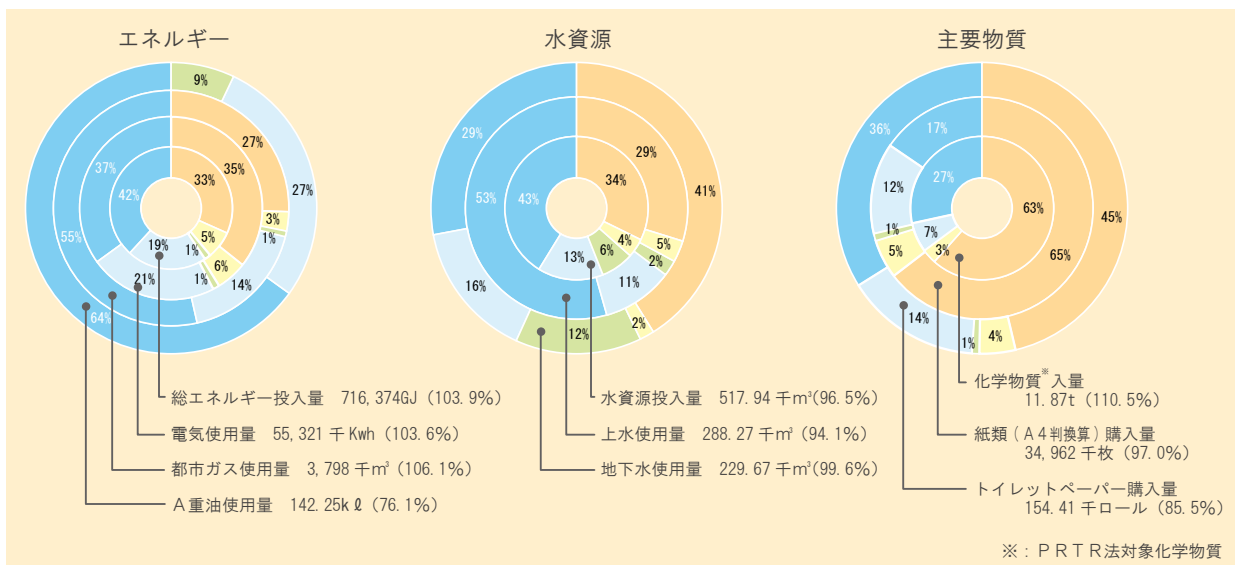
大学の教育・研究活動から生じる環境負荷には、教育・研究等に使用される電気などの各種エネルギー利用や、用紙などの資源の消費、それらから排出される二酸化炭素や廃棄物などがあります。千葉大学ではこれらの環境負荷の適正管理に努め、環境負荷の低減に積極的に取り組んでいます。

2007年度の物質収支は以下の図のとおりです。総エネルギー投入量が3.9%増加するなどの課題が認められます。詳細なデータは本編をご覧ください。

■千葉大学における物質収支（2007年度）

■西千葉地区 ■松戸地区 ■柏の葉地区 ■亥鼻地区 ■附属病院

<カッコ内は対前年度比、円グラフは地区ごとの比率>



INPUT

千葉大学

OUTPUT

教育

研究

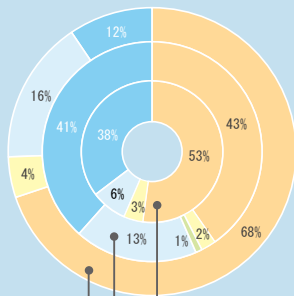
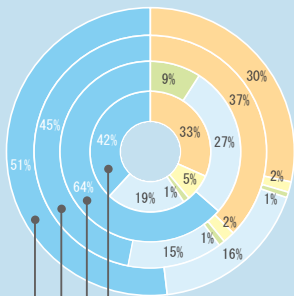
課外活動

診療



大気・水域への排出

廃棄物・廃液等



※：P R T R法対象化学物質

[データ集計方法]

●対象期間

2007年4月1日～2008年3月31日

●集計範囲

国立大学法人千葉大学

西千葉地区・松戸地区・柏の葉地区・亥鼻地区

●参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン 2007年版」

●算定方法

物質収支の算定は、環境報告ガイドライン 2007年版に基づいて行いました。ただし、電力起源の二酸化炭素排出量は、東京電力㈱の排出係数を用いて算出しています(2004年度：0.381kg/kWh、2005年度：0.368kg/kWh、2006年度：0.339kg/kWh、2007年度：0.425kg/kWh)。

BODは、各地区の年度ごとの平均値を基に算出しました。

環境会計

2007年度の千葉大学の環境保全コストは6.6億円（うち投資額3.1億円、費用額3.5億円）でした。また、環境保全対策に伴う経済効果は、光熱水料や廃棄物処理費が増加したため、3,100万円の増加となりました。

[データ集計方法]

●対象期間

2007年4月1日～2008年3月31日

●集計範囲

国立大学法人千葉大学

西千葉地区・松戸地区・柏の葉地区・亥鼻地区

●参考ガイドライン

環境省「環境会計ガイドライン 2005年版」

●算定方法

(1) 環境保全コスト

・上・下流コスト及び研究開発コストは集計していません。

・費用の中には減価償却費は含めていません。

・環境保全対策に伴う光熱水料金は集計していません。

(2) 環境保全効果

・物質収支のデータ集計方法のとおり。

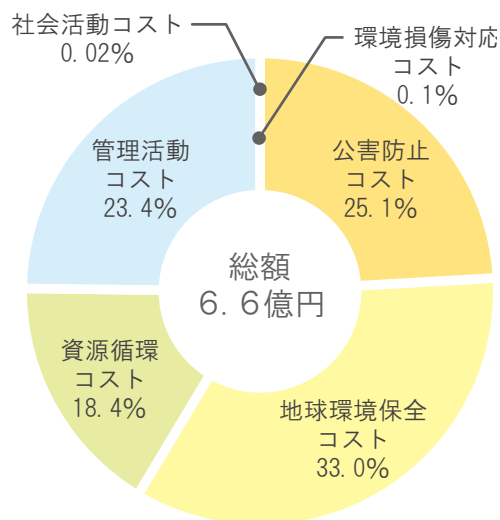
(3) 環境保全活動に伴う経済効果

・確実な根拠に基づいた実質的效果のみ計上しています。

●2007年版からの変更内容

・投資額と費用額別に分けて集計を行っています。

・新たに環境保全対策に伴う人件費を追加して集計しています。



環境保全コスト（構成比率）

用語集

用語	説明
環境ISO学生委員会	環境マネジメントシステム実習Ⅰ又はⅡの単位の取得者又は受講者で参加意志のあるものによって構成される学生組織。
環境ISO企画委員会	千葉大学の環境マネジメントシステムに関する意思決定機関。
環境ISO事務局	施設環境部内におかれた組織。ISO14001規格の要求事項に適合したEMSの確立・実施・維持に係る業務を行う。
環境ISO実行委員会	キャンパス毎に行われる委員会で、各部局の代表より構成され、部局同士の情報伝達、情報交換を図る。
環境側面	環境と相互に影響しうる、組織の活動、製品又はサービスの要素。
環境だより	附属幼稚園・小・中学校の児童・生徒・保護者を対象に発行するおたより。附属学校との連携、地域との連携、西千葉キャンパス全体における情報共有の活性化を目的とする。
環境マネジメントシステム(EMS)	組織のマネジメントシステムの一部で、環境方針を策定し、実施し、環境側面を管理するために用いるもの。マネジメントシステムは、方針及び目的を定め、その目的を達成するために用いられる相互に関連する要素の固まりを指し、組織の体制、計画活動、責任、慣行、手順、プロセス及び資源を含む(Environmental management systems)。
基礎研修	すべての構成員及び準構成員に対して、主に千葉大学の環境マネジメントシステムについて教育するために実施する研修。環境ISO学生委員会と教職員がチームを組んで実施する。
グリストラップ	油脂分離集器のこと。千葉大学では業務用の厨房にはグリストラップの設置を義務づけている。排水に含む油脂や生ごみなどの汚濁物質を分離収集して一時留めておくことにより、これらが直接下水道に流出するのを防ぐ機能を果たす。
ケミレスタウン・プロジェクト	シックハウス症候群などを防ぐ快適な住環境を研究するプロジェクト。柏の葉キャンパスにある環境健康フィールド科学センターにて行われている。
構内事業者	大学生生活協同組合や学校福祉協会など、千葉大学構内で事業を行っている業者。
内部監査	環境マネジメントシステムの運用状況を、監査基準を用いて、組織的・実証的・定期的・客観的に内部組織によって評価すること。
ミックス古紙回収	紙ゴミの減量を目的に千葉大学で実施している紙分別法一つで、汚れていない紙ゴミを分別回収している。
CUCRIS(ケクリス)	化学物質管理システム。島津エス・ディー株式会社が開発したバーコードを用いた薬品管理システムCRIS(Chemical Registration Information System)に千葉大学の頭文字CUを加え運用している。
ISO14001	ISO(国際標準化機構: International Organization for Standardization)が定めた環境マネジメントシステムに関する国際規格。

基礎要件

この「千葉大学環境報告書 2008 ダイジェスト版は、「千葉大学環境報告書 2008」を基に作成しています。

対象範囲：千葉大学西千葉・松戸・柏の葉・亥鼻キャンパスの教育・研究・診療・社会貢献活動及び本学が業務を委託した事業者のキャンパス内における事業活動

対象期間：2007年4月1日～2008年3月31日
過去の実績を含む（対象期間を超えて報告する場合はその旨を明記しています。）

作成部署：千葉大学施設環境部（環境ISO事務局）

発行年月：2008年7月

本報告書ダイジェスト版は、千葉大学環境ISO学生委員会の作成した原案に基づき、千葉大学が発行しています。

お問合せ先



国立大学法人 **千葉大学**
National University Corporation
Chiba University



千葉大学環境ISOロゴマーク

千葉大学環境ISO学生委員会ロゴマーク

施設環境部（環境ISO事務局）
〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
TEL:043-290-2139 FAX:043-290-2144
E-mail:kankyo-iso@office.chiba-u.jp
URL:<http://kankyo-iso.chiba-u.jp/>

千葉大学環境報告書 2008 の本編及びダイジェスト版は、千葉大学ホームページ上で公開しています。トップページの「環境への取り組み」ボタンをクリックしてください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています



100%植物油溶解インキを使用しています